

課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
17100009	情報バリアフリー技術による産業化モデルと障害者社会参加のための実践的研究	伊福部 達（東京大学・先端科学技術研究センター・教授）	A

当研究は、第1に研究代表者らの研究の蓄積を基に、実用的なシステムの開発を目指すとともに、第2に持続的な供給を目指して、事業が経済的に自立する可能性を考えるという、意欲的な目標を掲げた。

第1の点に関しては「音声同時字幕システム」や「触覚ジョグダイヤル」の開発で優れた成果を上げ、高く評価できる。一方、第2の点に関しては、事業として成立する条件を推定として提示したに過ぎない。従って、「産業化モデル」と標榜した割には、まだ相当な取り組みの余地を残したと言える。